

World Watching 142

ワールド・ウォッチング



樋口 嘉章

社団法人日本港湾協会企画部長



はじめに

シベリア鉄道の東端に位置するロシア極東沿海州諸港（ウラジオストック港、ナホトカ港、ポストチヌイ港など）については、これまでに多く紹介されてきた（たとえばワールド・ウォッチング第67回、2005年12月号、安間、同第138回、2011年11月号、仙崎）。しかしより北側のハバロフスク州ワニノ港とソヴィエツカヤ・ガヴァニ（以下SG）港についての報告はほとんどない。この度、両港を視察するとともに、港湾関係者などからヒアリングを行う機会を得たので、その結果を2回に分けて報告したい。

ハバロフスク州は図1に示す通り沿海州の北側に位置し、面積は79万km²、人口144万人（2002年国勢調査）、州都ハバロフスク市の人口は58万人（2008年）となっている。シベリア鉄道のさらに北を走るバイカル・アムール鉄道（第2シベリア鉄道、以下BAM鉄道）の東端、間宮海峡（タタール海峡）に面してハバロフスク州のワニノ港、SG港（図2）が位置している。



ワニノ港の現況と民営化の状況

1943年創立のワニノ港は、1993年に株式会社化され、ワニノ商業港となっている。ワニノ商業港は岸壁施設については国から49年の借借契約に基づいて借りている一方、土地・建物・クレーンなどの荷役機械については自らが所有している。

ワニノ商業港の株式の73%は国（連邦国家資産

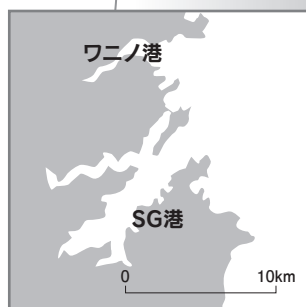


図2 ワニノ港、SG港

図1 ハバロフスク州地図

ロシア・ハバロフスク州の港湾について

管理庁、Federal Agency for State Property Management）、21%は企業家オレグ・デリバスカ所有のロシア・アルミニウム（ルサル、アルミニウム会社）、6%は従業員が保有している。意思決定は9人で構成される取締役会が行い、取締役のうち7人は連邦国家資産管理庁、2人はアルミニウム会社が出しており、この他に監査役が2名おかれている。現在の従業員数は1,670名となっている。

港湾の料金については政府がワニノ商業港の提案を受けて定めることとなっているが、料金の改定を政府に提案しても、認可まで1年ぐらいかかるのが実態である。

株式会社化された当初はワニノ港の戦略的重要性に鑑みて、国が過半の株式を所有して支配権を持つこととされていたが、2010年にワニノ港は国の戦略的施設のリストから外された。これを受けて2010年に国の株式持ち分を民間へ売却する入札が行われた。この入札には13~14社が応募、応札者の中にはSUEK社（シベリア石炭エネルギー会社、石炭会社）やメチェル社（Mechel、鉄鋼企業、炭鉱も所有）や冶金会社などが含まれていた。勝ったのはモスクワのセルディクス・トロイ社（建設会社）だったが、同社は必要な金額を振り込まなかったため、契約には至らなかった。

将来的には2012年に投資銀行を通じて株式を売却することが検討されている（銀行に投資者を探してもらう）。ワニノ商業港の管轄は連邦国家資産管理庁だが、民営化における入札のプロセス（入札金額を含む）については経済省が管理している。ロシア西側、ノルウェーとの国境に近いムルマン

スク港、白海に面したアルハンギルスク港でも港湾民営化のプロセスが進められようとしている。

民営化の展開によっては51%以上の株式を単一の者が所有して、支配権を得ることもありうる。その場合、国の意向に関係なく支配者の意向によって貨物が特定化される可能性も否定できない。

ワニノ港とSG港はノバロフスク（600km）、コムソモリスク（300km）などノバロフスク州の都市への玄関口であり、背後圏となるBAM鉄道沿線に豊かな自然鉱物資源がある。

ワニノ港の取り扱い貨物量は2010年実績で外国貿易450万トン、内国貿易50万トン、サハリン向けのワニノ～ホルムスク・フェリー150万トンの計650万トンとなっている。外貨貨物450万トンの内訳は、アルミナ（アルミニウム原料）100万トン、木材（製材）100万トン、石炭100万トン、アルミニウム15万トン（最盛期は最大70万トン）、それ以外の貨物である。ワニノ港はもともと石炭などバラ荷の貨物は扱っていなかったが、現在はほとんどすべての貨物（木材、金属、袋物の貨物、石炭、コンテナなど）を扱っている。

外貨コンテナ航路については以前就航していた釜山航路が廃止となって、現在は半年前に就航した上海航路のみである。月2回の寄港頻度で1回あたり150TEU程度の積み下ろしとなっている。コンテナ・ターミナルの取り扱い能力（年間8万TEU）からするとまだまだ取扱量を増やす余地はある。サハリン向けのコンテナについてはウラジオストック～コルサコフの航路で運ばれており、ワニノ港は経由していない。

港湾の取り扱い能力としては年間850万トン可能だが、現時点では達成できていない。

ワニノ港はSG港とは違って1年中凍ることはない。ただし、2月末～3月初旬にオホーツク流氷が流れてくるため、この時期に海岸向けの風が吹くと船舶の運航上問題がある。

ワニノ商業港の岸壁一覧を図3に示す。最大の岸壁水深は-11.5mとなっており、最大で4万DWT級の船舶まで入港可能である（以上の情報はワニノ商業港の代表取締役アルフィン・S・ボグディノフ氏へのヒアリングによる）。

この他にワニノ商業港の湾口側にトランスブネル社の石油取扱施設あり、オイルを年間約350万トン積み出している。また、北側のワニノ湾では2008年にSUEK社の石炭積み出し施設が供用を開始しており、BAM鉄道で輸送してきた燃料炭を約1,150万トン（2011年見込み）積み出し輸出している（いずれもワニノ商業港とは別の会社）。

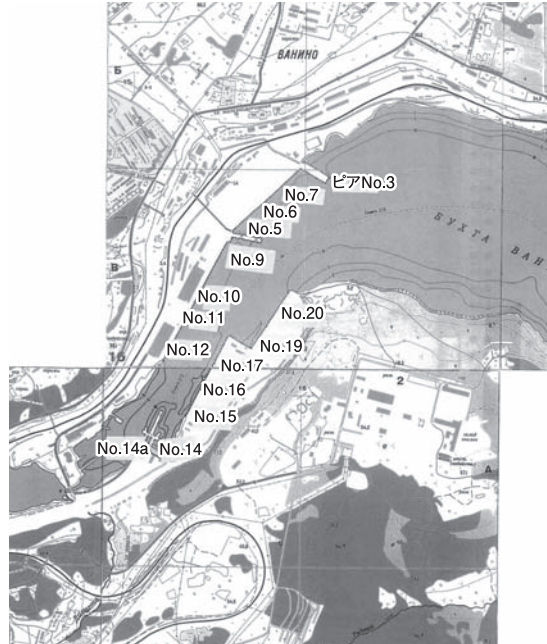


図3 ワニノ商業港の岸壁一覧



ソヴィエツカヤ・ガヴァニ（SG）港

SG港は現時点ではワニノ～SG間の鉄道輸送能力の制約もあり、それほど多くの貨物を取り扱っているわけではないが、水深の深い湾に位置しており（図2）、少ない港湾投資で取り扱い能力を大きくすることが可能である。SG港の港湾取扱貨物量は、2010年405千トン、2011年1月～10月414千トンであり、貨物の内訳としては、木材、石油（ロシア北部向け）、サハリン島との距離が一番近くなるネヴェルスコイ海峡に敷設されるガスパイプラインのために必要となる建設資材などである。

現有の施設は18バース、延長2,974m、最大水深-10.2m、アプローチ・チャネルの水深は-29mある。入港可能な船舶の大きさは長さ180m、幅25mであり、183m、幅32m、5万DWT級の船が入港した実績がある。

SG港には①SGターミナル、②バンカー・ポルト、③プロストル（漁業コルホーズ）など5つの港湾荷役業者がいる。

市当局によれば取り扱い可能な貨物量は226万トンだが、鉄道が貧弱なために現在の取り扱い貨物量は少ないとのことであった。しかし、現有の港湾施設を見ると、たとえばバンカー・ポルトでは船舶修理工場跡を荷役のために使おうとしているがまだ荷役機械やヤードなどの整備がされていないなど、課題は多いと見受けられた。

謝辞

本稿は（独）新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の海外炭開発高度化等調査で、現地調査を行った際の成果のうち、港湾関係者にとって興味深いと思われる部分を取りまとめたものである。データを出すことを許可いただいた（独）新エネルギー・産業技術総合開発機構に感謝の意を表する次第である。